

(参考)

昨年度の調査結果（平成 30 年 12 月 26 日発表）

平成 30 年 7 月 31 日～8 月 1 日にかけてのさいたま市役所局、小川局、秩父局、東秩父局のオゾン濃度変化を図 3 に示します。

地上にある測定局のさいたま市役所、小川、秩父では大気中の光化学反応によって、日中にオゾン濃度が上昇し、小川では午後 6 時に 100ppb に達しました（120ppb で注意報発令）。その後、地上では急激に濃度低下したのに対し、地上 850 m の東秩父では、午後 9 時まで上昇し続け、夜間を通してオゾン濃度は十分に下がりにませんでした。また、午後 9 時の高度 1,000m では、850m より更に高い濃度であることが初めて分かりました（図 4）。

（この結果は、学術的にも貴重なため、令和元年 9 月に大気環境学会にて発表します。）

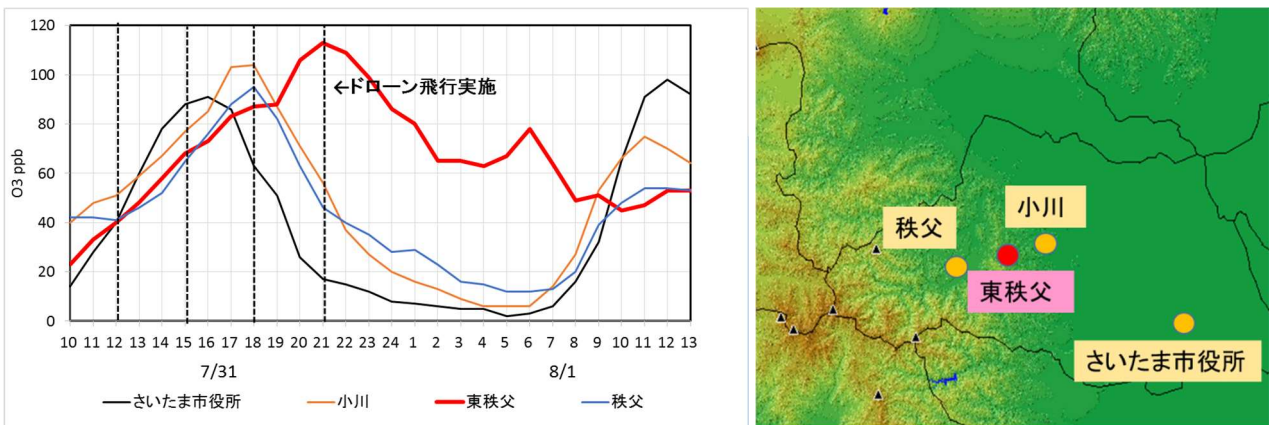


図 3 昨年度の調査結果（測定局）と測定局の位置

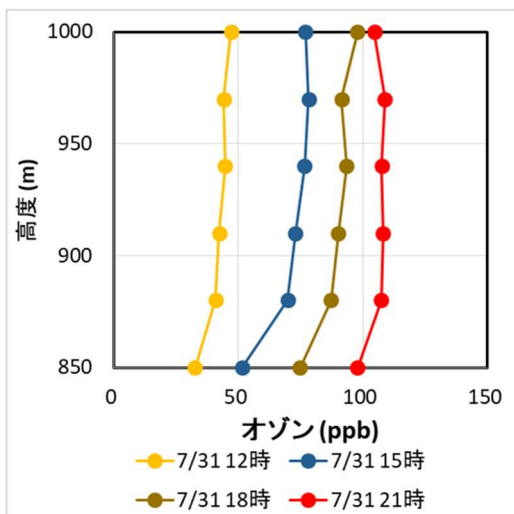


図 4 昨年度調査結果（東秩父の上空）